

## 平成 23 年度 第 1 回 十和田市事務事業評価 市民検討委員会 会議録

日 時 平成 23 年 10 月 4 日 (火) 15 : 30 ~ 17 : 00

場 所 十和田市役所 新館 5 階 第 1 会議室

出席委員 伊藤伸彦委員 (委員長) 小林博子委員 (副委員長) 櫻田一雅委員、築田明博委員、  
上野東星委員 欠席 : 櫻田努委員

事務局 (企画財政部) 西村部長、伊藤理事

横道課長 (政策企画室長) 工藤次長、中野渡主査、佐藤主査  
(農業政策課) 前山課長 (十和田産品販売戦略室長) 高淵次長  
(商工労政課) 山辺課長、柴宮課長補佐  
(都市整備建築課) 中野渡課長、野月課長補佐

### 1 . 議 題

- (1) 評価の進め方について
- (2) 事業概要及び評価内容説明、論点整理
- (3) その他 (質疑等)

### 2 . 会議資料

- (1) 平成 23 年度 十和田市 事務事業評価の概要
- (2) 市民検討委員会 設置要綱
- (3) 市民検討委員会 名簿
- (4) 外部評価対象事業 事務事業評価シート (含 補足説明資料)
- (5) 委員からの事前シート集計表及び論点整理表 (素案)

### 3 . 議 事

- (1) 委嘱状交付

- (2) 市長挨拶

本日は、皆様には大変お忙しい中、十和田市事務事業評価市民検討委員会にご出席くださいます。大変ありがとうございます。また、只今、委員の委嘱をお願いしましたところ、快くお引き受け頂きまして、重ねてお礼申し上げます。

さて、今、どの自治体におきましても、厳しい財政状況の中で色々な形で事務事業の見直し、いわゆる行政改革を進めております。私どもも、2 期目に入っておりますが、行政改革を進めておまして、その中で事業の見直し等を進めているわけですが、国の事業仕分けにも見られるように、行政に対する市民の目と申しますか、非常に意識が高まっているのも事実でございます。

こういうことから、本市でも昨年は、試行の段階でございましたが、事務事業評価を行っております。そして今年、本格的に導入するというので、本日に至ったわけでございます。

本来、事務事業評価は、私ども行政が責任を持って見直しを進めていくことが基本だと思っておりますが、評価の過程の透明性を高めるため、あるいはまた、私どもの見る事業内容と、市民から見る目が違うのではないかと、私どもも最終的には市民のため、市のための事業ということもありまして、是非皆様の意見を聞きながら、事業を進めていかなければならない、そのように

思っております。

そこで今回は、第三者評価ということで、事務事業の評価内容の客観性と信頼性を高めるため、今回の検討委員会ということになった訳でございます。

2年前に、元気な十和田市をつくるということで、十和田市元気づくり会議、50人のメンバーからなる会を設置いたしました。その中で、4つの部門（観光、まちの活性化、福祉、農業）に分かれ、ワークショップを行って頂いて、最終的な答申を頂いた訳でございますが、それに基づいて、現在も進めている訳です。その中で、これからは市の実施している事業を市民の方にも参画して頂いて、事業の見直しや評価をして頂くということでお約束した訳でございますが、それが、昨年試行、今年から本格的な実施となった次第でございます。

皆様には、大変お忙しいとは思いますが、事務事業の評価のため、より市民のための事業となるように、どうか忌憚りの無いご意見を頂ければありがたいと思います。

簡単ではございますが、開会にあたりましてのあいさつといたします。よろしくお願いいいたします。

### (3) 委員長及び副委員長選任

委員長に伊藤伸彦委員、副委員長に小林博子委員が選任された。

#### (委員長挨拶)

委員長を務めさせていただきます伊藤です。よろしくお願いいいたします。私の勤めている大学でも、自己点検評価を長い間やってきたのですが、それだけではだめだということで、外部評価の仕組みを作っております。それも1つではなく、複数のものを実施しておりますけれども、我々働く者にとっては、非常に大変だし、中々厄介だなというところもあります。ただ、仕事全体として緊張感が、そして指摘事項を見直して自分たちもよく考えれば、やはり指摘されて良かったなというところが必ずあります。市政についてもそういった観点で、短い時間ですけれども我々も意見を出して、市政に活かして頂ければと思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

### (4) 評価の進め方について事務局から説明

質問事項は、特になし。

### (5) 事業概要及び評価内容説明、論点整理

各担当課から補足説明シートをもとに事業概要の説明を行い、次に評価シートをもとに事業の結果と評価について説明を行った。

#### 【質 疑】

##### 農畜産物等総合販売推進事業

- ・指標の設定が気になる。1つは、この事業と市全体の農産物の総販売額との因果関係が弱いような気がする。もっと身近な数値目標があるのではないかと思う。もう1つは、仮に総販売額を指標にするとして、このご時世に右肩上がりの目標値を設定することに無理はないか。必ずしも右肩上がりでなくても良かったのではないか。

費用対効果を図るためのデータが無いので、その代わりに農業収入を目標値として設定している。野菜価格の変動によりバラツキはあるものの、昨年は主要4品目の売り上げが伸びている(150~200%)。当課における取組みの効果を捉えるためのデータを掴みながら基

礎となる数値を設定していきたい。

- ・効率性の評価について、各課へ振り分けることにより、今まで以上の実績を見込めるか。  
縦割りということではなく、協力していく体制をとれるようにしたいと考えている。
- ・他課と類似している作業内容について、次回会議までに資料として頂けるか。  
はい。
- ・米粉について、丸井精米工場と農協の導入した機械は？  
丸井さんが導入したものは、微細粉の米粉を作る機械、農協が導入したものは、にんにくの粉を作るためのもので、川内にある農協から持ってきている。
- ・農協とはどのように関わっているのか。  
連携して、農協のミネラル野菜やにんにくを東京で消費者へ紹介する等。農協主催のイベントには参加していないので、表に出てこないという形になっている。
- ・主に消費について、市民への浸透が苦勞されているのではないかと。  
HP やサポーター等を通じて PR を行っている。徐々に浸透しているのではないかと考えている。
- ・米粉はその物はどこで手に入るか。販売店はまだ多くはないのではないかと。当然割高であることと考えられるので、市場原理に任せると、どうしても普及に二の足を踏むので、行政の予算の中で支援も考えた方がよいのではないかと。  
米粉は、スーパーセンターや小売店で入手できる。また、HP でメニューを沢山紹介していけば、使って貰えるのではないかと。また、販売店は数限りではなくて、多くの店で売れば、売れやすいのかなという感じはしています。
- ・十和田市には推奨マークが沢山あるが、何らかの統一性ができないものか。あるいは次の会議までに、十和田の推奨マークがこんなに沢山ありますよ、というような資料を出すことはできるか。  
はい。  
黒にんにくのマークや十和田逸品のマークがあり、今、観光業務でも作っている。1つのマークで十和田市のものであるということが分かればよいのではないかと。

論点については、「農産物販売促進の有効性・効率性を高める方策について」、「他事業・他部門との連携について」の2点に決定された。

### 商店街機能強化事業

- ・人件費は、市の正職員のものか。  
はい。事務事業評価の中で正職員にかかる人件費の単価は、1人平均 36,000 円で計算しています。
- ・成果指標の持ち方について、情報誌の発行部数から、情報誌の質や評判に設定してはどうか。また、イベントについては来場者数のカウントだけでなく、来場者の満足度や商店街の方々の感想等にしてはどうか。

- ・イベントについて、何月に何のイベントがあって、何人集まったか、コストも含めた資料を提出してほしい。

はい。

- ・商店街の方々の意見収集は行っているか。

イベントをされる方々へ、次年度に実施するイベントの実施の仕方や方向性についてのヒアリングを行っている。イベントが終わった後には実績報告を受けている。また、情報誌については、アンケート調査の結果を反映するように指導している。

- ・改善事項について、総括はしているものはあるか。

特に文書で総括は行っていないが、事業毎に実績報告が上がってくるので、それらにおける問題点については、次回に解決するように指導している。指摘にもあるように、集客が販売促進に結び付いているかという検証も必要と考える。

満足した人が何%位いるのかという指標も必要かと思われる。

- ・発行している冊子は何という冊子か。

チョコット。

- ・似たような冊子が多々あると思う。タウン誌やガイドブックの一覧を把握できる範囲で作成できるか。

はい。

論点については、「情報誌発行事業のあり方について」、「イベント事業のあり方について」の2点に決定された。

### 市民参加による緑化の推進

- ・花壇コンクールに参加する学校は、小中学校か。継続して参加しているのか。

市内小中学校が参加し、ほぼ同じ学校が継続して参加している。

- ・参加数の変動については、個人の参加が減ってきているということか。

参加数の変動については、平成17年の市町村合併の影響もある。旧市、旧町ともに下がってきてはいる。審査は年に2回行っているが、合併と同時に広範となり、気候も微妙違って、花の咲く時期が違ってきている。このようなことから、審査に偏りも出てきたという批判の声もあり、段々と減ってきているのが実状である。

- ・評価シートと補足説明資料だけでは、花壇コンクールの参加者の気持ちを読み取ることができない。表彰式後に参加者から意見を貰っているようだが、そういう資料も出して頂ければ。また、各部門における参加数の推移を把握したい。

表彰後のヒアリングを行っているのは、21年度と22年度の2年間だけで、座談会的な形で行っているのでメモはしていない。頂いた意見には、審査の時期がよろしくない、庭とプランターの比較がよろしくない等の意見がある。時期については、真夏の審査について、審査員である学校の先生にとって都合が良いが、花的には良くないということから、審査回数を1回から2回に増やした。広範に渡り、全体を見ることができないため、1回目は街路や町内会の部分については写真審査を行い、個人の部と会社の部については、実際に審査員が見

に行っている。このような形で、参加者のご意見を踏まえた改善を行っている。

また、各部門における参加数の推移については、合併以降のものについては提供できる。

- ・町内会連合会においても毎年花植えに取り組んでいるが、そちらとの連携というのも考えてみてはどうか。

町内会連合会の中で、水と緑と花の部会というものがあり、その部会の中で、町内会の花壇、特に道路や防風林の保全地区の中に大きな花壇を作っている町内会も沢山ある。また、稲生川等、せせらぎ水路に植えているところもあり、町内会連合会で用意するだけでは足りない状況にある。都市整備建築課へも花の配布の要望が多々有る。事業の統合見直し、経費縮減しながら、街路樹や道路に植えて貰っている花とか、防風林の保全地区に植えて貰っている部分についての支給等についても考えていく必要がある。

- ・23年度予算が減らされていることについては。

評価シートで示している費用は、花壇コンクールのみのデータ。花壇コンクールの予算を縮小し、オープンガーデンの方へ予算を移行。全参加者の写真等を印刷した冊子を増刷し PR を図っている。限られた予算、人員の中でウェイト付けを試行錯誤している。

- ・冊子は無料で配布しているのか。

今まではパソコンで作成し、無料で配布していた。

冊子を有料にして、その収益を花にまわすという手もあるのではないか。

印刷物にするから費用がかかる。HP を活用することで改善されるのではないか。

**論点については、「これまでの事業実績の総括について」、「オープンガーデンとわだ等との連携を踏まえた今後の事業のあり方について」の2点に決定された。**

## (6) その他

事務事業担当課は、次回会議までに関連資料を準備する。

次回第2回会議日程について

- ・日時 平成23年10月24日(月) 18:30~
- ・場所 十和田市役所 本館中2階 議会会議室

以上